

国際生物学オリンピック概要

- 名称:** 国際生物学オリンピック (IBO: International Biology Olympiad)
- 目的:** IBOは、高校生を対象に生物学分野への関心を高め、参加した 高校生の才能を伸ばし、生物学に関わる将来の科学者を育てるとともに、各国の生物学に関わる情報交換を推進することを目的としている。
- 表彰:** 参加国の国内大会で選ばれた 4 名が個人で参加し、理論および実験試験の成績を総合評価して、成績の上位から概ね 10%、20%、30%にそれぞれ、金メダル、銀メダル、銅メダルを授与している。
- 歴史:** 1985 年から旧チェコスロバキアとポーランドで開催した最初の国際生物学コンテストが前身である。その後、ユネスコの要請によって 1989 年にIBO本部が創設され、1990 年に旧チェコスロバキアのオルモウツで第 1 回大会が開催された。以降は毎年開催されている。

開催年	開催国(都市)	参加国数	日本の成績			国内選考の 応募者数
			金	銀	銅	
1990	旧チェコスロバキア (オルモウツ)	6				
1991	ロシア (マチャトスカラ)	9				
1992	スロバキア共和国 (ポブラド)	12				
1993	オランダ (ユトレヒト)	15				
1994	ブルガリア (ヴァルナ)	18				
1995	タイ (バンコク)	22				
1996	ウクライナ (アルテク)	23				
1997	トルクメニスタン (アシガバート)	28				
1998	ドイツ (キール)	33				
1999	スウェーデン (ウブサラ)	36				
2000	トルコ (アンタリア)	38				
2001	ベルギー (ブリュッセル)	38				
2002	ラトヴィア (リガ)	40				
2003	ベラルーシ (ミンスク)	41				
2004	オーストラリア (ブリスベン)	40				
2005	中国 (北京)	50	0	0	2	399
2006	アルゼンチン (リオ・クアルト)	47	0	0	3	547
2007	カナダ (サスカトーン)	49	0	1	3	963
2008	インド (ムンバイ)	55	0	3	1	1,488

* 日本は 2005 年より参加

第 20 回国際生物学オリンピック概要

- 名 誉 総 裁 秋篠宮文仁親王殿下がご就任
- 名 称 第 20 回国際生物学オリンピック (The 20th International Biology Olympiad)
URL: <http://ibo2009.org/>
- 開 催 期 間 2009 年 7 月 12 日(日)~7 月 19 日(日) 8 日間
- 開 催 場 所 茨城県つくば市(筑波大学を中心としたつくば研究学園都市)
- 参 加 国 数 60 カ国(予定)
- 参 加 人 数 各国代表生徒 240 名(予定) 各国リーダー・オブザーバー200 名(予測)
- 主 催 国際生物学オリンピック 2009 組織委員会
国立大学法人 筑波大学
財団法人 日本科学技術振興財団
- 共 催 茨城県 つくば市 筑波研究学園都市交流協議会 財団法人 つくば科学万博記念財団
独立行政法人 国立科学博物館
- 特 別 協 賛 独立行政法人 科学技術振興機構
- 協 力 財団法人 倶進会
- 後 援 文部科学省 内閣府 外務省(申請中) 厚生労働省 農林水産省 経済産業省
環境省 日本学術会議 朝日新聞社 日経新聞社 毎日新聞社 読売新聞社
産経新聞社 中日新聞社 時事通信社 共同通信社 茨城新聞社 NHK
IBS 茨城放送 常陽新聞 常陽リビング
- 関係学協会 社団法人日本解剖学会 社団法人日本植物学会 社団法人日本生化学会 社団法人日本動物学会
社団法人日本農芸化学会 社団法人日本薬学会 社団法人日本薬理学会
特定非営利活動法人日本分子生物学会 特定非営利活動法人日本免疫学会 日本遺伝学会 日本医学会
日本宇宙生物科学会 日本古生物学会 日本細胞生物学会 日本植物生理学会 日本神経化学会
日本神経科学学会 日本進化学会 日本生態学会 日本生物教育学会 日本生物物理学会
日本藻類学会 日本発生生物学会 日本比較生理生化学会 日本比較内分泌学会 日本微生物生態学会、
日本防菌防黴学会 有限責任中間法人日本生理学会 (50 音順)

The 20th International Biology Olympiad Organizing Committee c/o Japan Science Foundation
2-1 Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0091, Japan TEL: +81-3-3212-8477 FAX: +81-3-3212-7790 E-mail: secretariat@ibo2009.jp

第 20 回国際生物学オリンピック スポンサー

ダイヤモンド	武田薬品工業株式会社 東レグループ(東レ株式会社/東レ・メディカル株式会社/株式会社東レリサーチセンター)
プラチナ	アサヒビール株式会社 味の素株式会社 アステラス製薬株式会社 エーザイ株式会社 大塚製薬株式会社 キッコーマン株式会社 協和発酵キリン株式会社 キリンホールディングス株式会社 塩野義製薬株式会社 JAグループ(全国農業協同組合連合会/全国共済農業協同組合連合会/ 農林中央金庫/株式会社日本農業新聞/社団法人家の光協会/全国厚生農業協同組合連合会/株式会社農協観光/ 全国農業協同組合中央会) 第一三共株式会社 大正製薬株式会社 田辺三菱製薬株式会社 中外製薬株式会社 日本たばこ産業株式会社
ゴールド	株式会社日立製作所 株式会社ベネッセコーポレーション 財団法人微生物化学研究会 サントリー株式会社 社団法人茗溪会 大日本住友製薬株式会社 テルモ株式会社 トヨタ自動車株式会社 浜松ホトニクス株式会社 万有製薬株式会社 明治製菓株式会社
シルバー	小野薬品工業株式会社 株式会社ニチレイ 株式会社日清製粉グループ本社 シスメックス株式会社 社団法人日本動物学会 日清オイリオグループ株式会社 日本水産株式会社 パナソニック株式会社 林原グループ 明治乳業株式会社 山崎製パン株式会社
ブロンズ	オムロン株式会社 株式会社 J-オイルミルズ 株式会社エスアールエル 株式会社海洋バイオテクノロジー研究所 株式会社トミー精工 株式会社ナリシゲ 株式会社ブルボン 株式会社文英堂 株式会社堀場製作所 株式会社ヤクルト本社 北原商事株式会社 財団法人放射線影響協会 シマダヤ株式会社 社団法人日本理科教育振興協会 昭和産業株式会社 高砂香料工業株式会社 東京書籍株式会社 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 日本製粉株式会社 日本比較内分泌学会 日本ミリポア株式会社 ファイザー株式会社 フジッコ株式会社 マルキン忠勇株式会社 丸美屋食品工業株式会社 美津野商事株式会社
スポンサー	株式会社サイエンスサポート 株式会社高長 極東製薬工業株式会社 社団法人日本植物学会 特定非営利活動法人日本分子生物学会 特定非営利活動法人日本免疫学会 日本遺伝学会 日本宇宙生物科学学会 日本細胞生物学会 日本神経化学会 日本発生生物学会 日本微生物生態学会 ヤトロ電子株式会社 有限会社共進理工

第 20 回国際生物学オリンピック サプライヤー

サプライヤー	アトー株式会社 オリnpas株式会社 株式会社島津製作所 日立工機株式会社
--------	---------------------------------------

国際生物学オリンピック 2009 組織委員会 委員名簿

委員長	井村 裕夫	(京都大学名誉教授)
副委員長	毛利 秀雄	(国際生物学オリンピック日本委員会委員長、東京大学名誉教授)
	沼田 治	(実行委員会委員長、筑波大学教授)
	松浦 克美	(科学委員会委員長、首都大学東京教授)
	浅島 誠	(募金委員会委員長、生物科学学会連合代表、日本学術会議副会長)
顧問	黒川 清	(日本科学オリンピック推進委員会委員、内閣特別顧問)
	庄山 悦彦	(日本科学オリンピック推進委員会委員、日立製作所取締役会長)
	前田 勝之助	(日本科学オリンピック推進委員会委員、東レ名誉会長)
	高久 史麿	(日本医学会会長)
委員	歌田 勝弘	(日本バイオ産業人会議世話人代表)
	青木 初夫	(日本製薬工業協会元会長)
	平田 正	(協和発酵キリン株式会社名誉相談役)
	相沢 慎一	(日本発生生物学会会長)
	初見 豊	(日本生物教育学会会長)
	磯貝 彰	(日本農芸化学学会会長)
	長野 哲雄	(日本薬学会会頭)
	矢原 徹一	(日本生態学会会長)
	筒井 和義	(日本比較内分泌学会会長)
	石和 貞男	(日本遺伝学会、国際生物学オリンピック日本委員会運営委員長)
	佐藤 矩行	(日本動物学会会長)
	今市 涼子	(日本植物形態学会会長)
	津本 忠治	(日本神経科学学会会長)
	岡田 清孝	(日本分子生物学会会長)
	中村 桂子	(生命誌研究館館長)
	西田 栄介	(日本細胞生物学会会長)
	中村 研三	(日本植物生理学会会長)
	長谷川 真理子	(日本進化学会副会長)
	見上 一幸	(日本生物教育学会会長)
	曾我部 正博	(日本生物物理学会会長)
	一条 秀憲	(日本生化学会副会長)
	森 滋夫	(日本宇宙生物学会会長)
	和田 正三	(日本植物学会会長)
	岩崎 洋一	(筑波大学長)
	橋本 昌	(茨城県知事)
	市原 健一	(つくば市長)
	小野 晃	(産業技術総合研究所副理事長)
	梶浦 一郎	(農業・食品産業技術総合研究機構理事)
	小幡 裕一	(理化学研究所バイオリソースセンター長)
	西野 虎之介	(茗溪会理事長)
	坪井 健司	(日本科学技術振興財団専務理事)

第 20 回国際生物学オリンピック シンボルマーク・ロゴマーク

大会 シンボルマーク

名 称	第 20 回国際生物学オリンピック (The 20th International Biology Olympiad)
略 称	IBO2009 つくば (IBO2009 Tsukuba)



このシンボルマークは才能あふれる若者がつくばより大きく羽ばたく様を象徴化したもの。

丸形のシンボルマークは友好、平和を意味し、世界各国から集まる参加者の国際交流と友好関係の確立を祈念している。

また、丸は“日の丸”に通じ、5弁の桜と白いシルエットでかたどられた筑波山と共に本大会の開催地である日本、そしてつくばを表している。

シンボルマークの基本色である青は「いばらきブルー」に通じ、広い空と広大な霞ヶ浦を抱く茨城県をあらわし、同時に「ジャパンプルー」として日本を表現している。

アホウドリの意味

シンボルマークに飛翔する鳥はアホウドリ(学名: *Phoebastria albatrus*)である。本種は乱獲により個体数が急速に激減し、現在では、繁殖地も鳥島と尖閣諸島に限られている。しかし、日本の研究者を中心にした保護活動の結果、2500羽近くまで回復するに到った。このように、絶滅寸前からの復活を遂げつつあるアホウドリは、教育と地球環境の豊かさを願う国際生物学オリンピック憲章の精神に合致し、さらに国境を越えた移動が国際交流になぞらえられることから、第20回国際生物学オリンピックのシンボルマークに大きく描かれている。

国際生物学オリンピック 2009 組織委員会 ロゴマーク

名 称	国際生物学オリンピック 2009 組織委員会 (The 20th International Biology Olympiad Organizing Committee)
-----	--



第20回国際生物学オリンピックのキーワードである「IBO」「2009」「つくば」「日本」を文字情報として明快に示しました。また5弁の桜と日の丸型のOによっても大会開催地である日本を表現している。

Japanの5文字をオリンピックカラーで塗り分けることで本大会が科学のオリンピックであることを、さらには、Oの内丸をDNAの2重らせんで形成することで、生物学のオリンピックであることを想起させる。

このDNAらせんモデルにより太古から現在までつながる生命の営みに敬意を表するとともに、本大会を起点として次の永遠にむけて生物学が大きく発展することを祈念している。